

コミュニケーション技術

問題 27 利用者とのコミュニケーションにおいて逆転移が起きている事例に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自分が利用者を嫌いなのに、利用者が自分を嫌っていると思い込む。
- 2 亡くなった祖母と似ている利用者に、無意識に頻繁に関わる。
- 3 利用者に対する不満を直接ぶつけずに、机を強くたたいて発散する。
- 4 敬意を抱いている利用者の口癖を、自分もまねて用いる。
- 5 利用者に対する嫌悪の感情を抑え、過剰に優しく利用者に接する。

問題 28 介護福祉職が行う傾聴に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 利用者が抱いている感情を推察する。
- 2 利用者が話す内容を介護福祉職の価値観で判断する。
- 3 対話の話題を介護福祉職の関心で展開する。
- 4 利用者が体験した客観的事実の把握を目的とする。
- 5 利用者が沈黙しないように対話する。

問題 29 Hさん(75歳, 男性)は, 脳梗塞(cerebral infarction)を発症して入院し, 後遺症として左片麻痺ひだりかたまひが残った。退院後, 介護老人保健施設に入所し, 在宅復帰を目指してリハビリテーションに取り組んでいる。ある日, HさんはJ介護福祉職に, 「リハビリを頑張っているけれど, なかなかうまくいかない。このままで自宅に戻れるようになるのか…」と暗い表情で話しかけてきた。

このときの, Hさんに対するJ介護福祉職の共感的な応答として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「不安な気持ちに負けてはいけません」
- 2 「きっと自宅に戻れますよ」
- 3 「Hさんが不安に思う必要はありません」
- 4 「不安に思っているHさんがかわいそうです」
- 5 「リハビリがうまくいかなくて不安なのですね」

次の事例を読んで、問題 30、問題 31 について答えなさい。

〔事 例〕

Kさん(75歳、女性)は、小学校教諭を定年退職した後、しばらく趣味やボランティア活動を楽しんでいたが、認知症(dementia)を発症し、介護老人福祉施設に入所した。見当識障害や記憶力低下がみられた。入所後、初めて息子夫婦が面会に来た。Kさんは息子に向かって、「ここで、国語を教えているの」と嬉し^{うれ}そうに語った。息子夫婦は面会を終えて、介護福祉職のところに相談したいとやって来た。困惑したような表情の息子から、「母が、学校で教えていると言った時、どうしたらよいでしょうか」と質問があった。

問題 30 このときの、息子に対する応答として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「ここは学校ではないので、息子さんから直してあげてください」
- 2 「お母さんの教員としての誇りを大切にしてください」
- 3 「お母さんの認識を改めるための何か良い知恵はありますか」
- 4 「認知症(dementia)が進行しているので仕方ありません」
- 5 「私たちも息子さんと同じように困っているんです」

問題 31 Kさんの病状は進み、自分から話すことはほとんどなくなり、こちらの問いかけにも応えたり応えなかったり、という状況になった。

このようなKさんとコミュニケーションをとる方法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 沈黙を守る。
- 2 表情を一定に保つ。
- 3 開かれた質問を使う。
- 4 ボディタッチを増やす。
- 5 コミュニケーションノートを使う。

問題 32 Lさん(30歳, 女性)は, パートタイムで仕事をしながら, 自宅で母の介護をしてきた。ある日, 母の訪問介護(ホームヘルプサービス)で訪れたM訪問介護員(ホームヘルパー)に対して, Lさんは, 「寝ている間に頭の中に機械が埋め込まれて, 行動を監視されている」と興奮気味に訴えた。

このときのM訪問介護員(ホームヘルパー)の対応として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 それは現実のことではないと説明する。
- 2 気にしなくてもよいと話をそらす。
- 3 Lさんの訴えを肯定も否定もせずに聞く。
- 4 監視されているのは間違いないと肯定する。
- 5 Lさんの感情に合わせて興奮気味に接する。

問題 33 叙述体を用いて介護記録を作成するときの留意点として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 情報を項目別に整理する。
- 2 問題のポイントを明確にする。
- 3 介護福祉職の解釈を記録する。
- 4 論点を明確にする。
- 5 利用者に起こったことをそのまま記録する。

問題 34 介護福祉職が行う報告の留意点に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 報告するときは、自分の意見を最初に述べる。
- 2 予定より時間がかかる業務であっても、完了後に報告する。
- 3 起こった事実は、抽象的な言葉で報告する。
- 4 指示を受けた業務の報告は、指示者に行う。
- 5 自分の推測を、事実であるとみなして伝える。